

始業式挨拶

平成30年4月9日
福島県立磐城高等学校長

皆さん、おはようございます。新しい季節がやってきました。ひとしお寒さがしみた今年の冬とは打って変わり、加速度的に春になり桜が一気に咲きました。待つて待つて待つて、この時とばかり、雲のごとく咲き誇り、風の中に花吹雪となる一週間を見てきました。今年の磐城高校生は、待つて待つて待つて一気に咲く一年を送ってほしいと心から願います。

桜から、えもいわれぬ桜色を取り出すためには、桜の花びらを煮詰めてその色を取り出すのではなく、最も寒い時期の1月の樹皮を煮込まねばその色は出ないと、染織家の志村ふくみがある本に書いておりました。桜は、1年という月日の中でその存在の全身全霊を打ち込んで、地下深くからあらゆるものを自分の中に取り込み、あの色を枝の先々に届けている。その力が、あの幾万もの桜の花の花びらの色になる。これは、大岡信の光村図書中学二年の教科書に載っている文章です。

皆さんは、いつか咲くその花びらの色を一番厳しい季節の中で懸命に力をため込んで一気に絞り出す桜のような力を持つことができるのです。是非、全身全霊を持って、えもいわれぬ桜色を紡ぎ出して下さい。皆さんがこの学舎で、待つて待つて待つてその力をためて一気に花開いてほしいと心から願うのです。

磐城高校の校歌の一番に「ああ楽し我らともがら」とあります。私も三年間、この地で高校生活を送りましたが、決して楽しいと言い切ることがなかった三年間であったと思います。しかし、苦しくても悲しくてもせつなくてもやるせなくても「楽し」と歌ってやろうという志はあったと考えます。そして、そういう志を持った我等ともがら達とつながっていたと考えます。40年たちますが、そのつながりは決して途切れることはないし、これからもないと思います。その志を持って三万六千名の卒業生とつながり、教職員とつながり同じ学年やクラスの仲間と私たちはつながっていくのです。

一番大切なのは、思いをつなげていくことです。決して命をおろそかにせず、前を向いていくことが大切だと思います。安心安全な生活を心がけ、悩みを一人で抱えることなく、交通事故に気をつけて、志を持って命をつないでほしいと思います。皆が志を持って前を向いて、一日一日を送りましょう。一日は24時間しかないが、24時間もある。1年は365日しかないが、365日もある。やることはたくさんある。皆さん、前を向き、全身全霊をもって、自分の色を紡ぎ出していきましょう。